

第3章 保存活用計画

1. 全ての文化財の保存活用について

(1) 足利市文化財データベース

① 足利市における文化財の情報整理の状況

足利市における文化財の情報整理の状況は、概ね以下のとおりに整理される。

- これまでに文化財に関わる数多くの調査（→「(2) 文化財調査」参照）を実施してきており、文化財に関する多くの情報を蓄積している。
- 指定・登録文化財となっている文化財については、指定調書を台帳管理している。
- 指定・登録等されていない文化財（特に個別のテーマに基づき実施された調査において確認された文化財）については、一部データベース化を進めている。

＊現在データベース化を進めている文化財（一覧表による整理と地図情報）：

絵馬、民家、蔵、埋蔵文化財、近代化遺産、石造物、名勝・庭園、神社

＊今後進める予定の文化財：美術・工芸品、織物技術

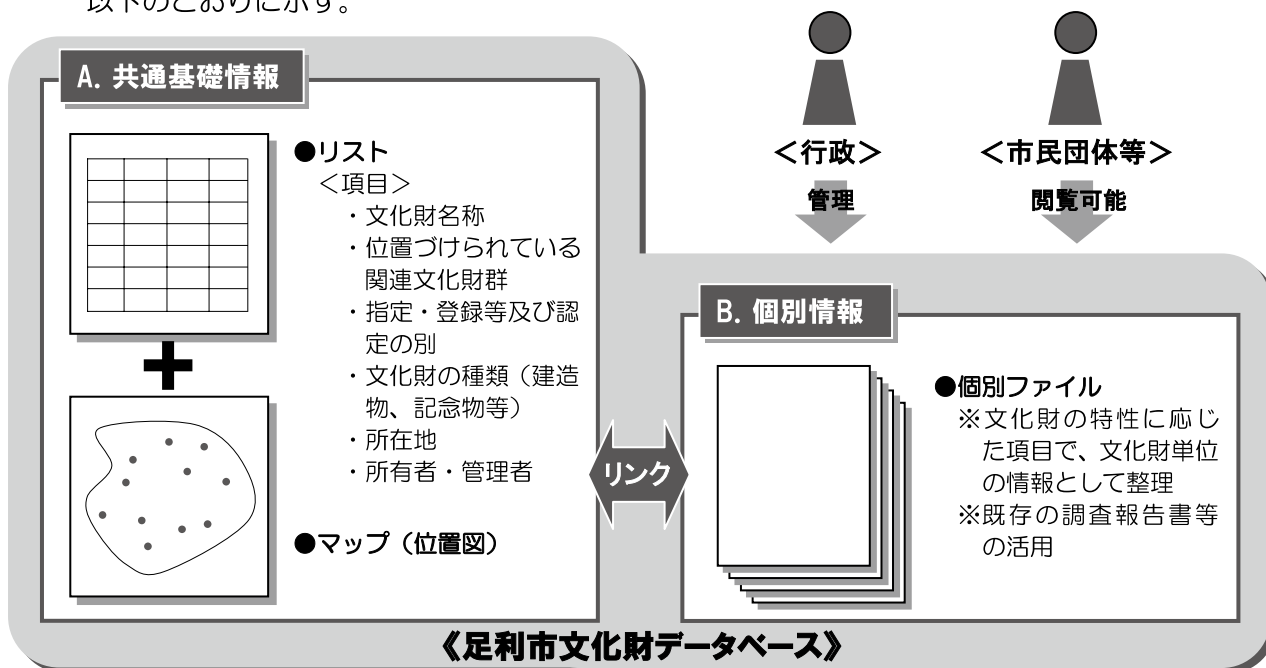
② 足利市文化財データベースに求められる事項

「基本構想」を踏まえると、足利市文化財データベースには、今後、文化財の保存活用を推進していく上での情報基盤として、以下のような要件が求められる。

- 全ての文化財（指定・登録を問わず、足利の歴史文化を語るもの全て）に共通する基礎情報の整理
- 文化財の特性に応じた情報の整理
例：建造物であれば
・建造物としての基礎的情報（構造、建築年代） ・図面資料関係（平面図、立面図）等
- 行政関係者だけでなく、保存活用に取組む市民団体等も、個人情報に配慮しながら閲覧等ができるシステムの構築

③ 足利市文化財データベースの構成（案）

以上の要件を踏まえ、今後、構築を図るべき「足利市文化財データベース」の構成（案）を以下のとおりに示す。



(2) 文化財調査

①これまでの文化財調査

足利市では、足利公園古墳の学術調査に端を発し、現在に至るまで様々な文化財調査を実施してきた。それらのうち、主な調査は以下のとおりに整理される。

- 昭和50年代～60年代前半にかけて、市域における文化財のあらゆる種類についての総合的な調査が実施されている。(足利市文化財総合調査団・足利市教育委員会)
- 埋蔵文化財については昭和50年代から継続して発掘調査等を実施しており、その成果により樺崎寺跡、藤本観音山古墳が国史跡に指定されている。(足利市文化財総合調査団・足利市教育委員会)
- 平成に入ってから、文化財の種別ごとの調査を継続して実施している。(足利市教育委員会：大学、市民団体等への委託、栃木県教育委員会)
- 足利市文化財愛護協会等の市民団体が独自に文化財調査を実施している。
- 市内高等学校の歴史クラブ等により歴史や文化財について調査を実施している。
- 平成20～22年度にかけて文化財総合的把握モデル事業を受託し、美術工芸品等の有形文化財や庭園、織物技術調査等を実施し、市内の文化財把握の充実が図られている。

表：これまでに行ってきた主な調査一覧

実施年度	調査名称	主な調査対象と調査内容
昭和54年度 ～ 昭和59年度	足利市文化財総合調査	文化財全般 有形文化財(美術工芸品、書籍、考古資料、建造物)、無形文化財(工芸技術、芸能)、民俗文化財、記念物(史跡、名勝、天然記念物)、埋蔵文化財
平成5年度	足利市民家調査	市内全域における古民家[所在地確認、年代確認等]
平成5～9年度	足利の神社	市内全域における神社[所在地、建造物の形式、祭神・配神、祭礼の確認等]
平成15年度	足利市の近代化遺産調査	市内全域における、近代につくられた建築物・土木施設[所在地確認、保存状況の確認等]
平成9～17年度	足利の石造物	市内全域における近世の石造物[所在地確認、実測等]
平成17～19年度	足利の廃寺	市内全域における廃寺[所在地確認、由来・由緒確認等]
平成21年度	市内名勝・庭園調査	市内全域における庭園[所在地確認、略配置図作成、管理状況の確認、写真撮影等]
	市内小絵馬等民間信仰文化財調査	市内全域における小絵馬[所在地確認、図柄・年代等の確認]
	鏝阿寺資料調査	鏝阿寺が所有する未調査文書[目録作成等]
	足利市織物技術調査	市内全域の染色工場[工場で活用・保持されている伝統的技術についての聞き取り]
	足利市内美術・工芸品調査	市内全域における美術・工芸品[所有者・製作年代の確認等]
	市内建造物調査	5件の建造物[実測調査]
	足利市内天然記念物調査	植物相に係る天然記念物、文化財の周辺環境(森林・社叢等)、文化的景観に係る環境[現地確認]

②今後の文化財調査の方向性

以上のことを踏まえ、今後の文化財調査については、引き続き市民団体等との積極的な協働を図りながら、これまで取り上げてきた分野の調査の充実を図るとともに、これまで特別のテーマとして取り上げていない分野の調査を推進する。

● 美術・工芸品の調査の継続

美術・工芸品調査では、これまで把握されていなかった仏像等の優品が確認されているが、悉皆調査まで至っていないため、今後も調査を継続する必要がある。

● 市内名勝・庭園調査の継続

平成 20 年度に初めて実施された市内名勝庭園調査では、市内に保存状態の良い近代の住宅庭園が数多く発見された。悉皆調査とはなっていないため、今後もさらに調査を継続するとともに、優れた庭園については測量調査等を行う必要がある。

● 無形文化財・民俗文化財の調査

文化財総合調査において、一定の無形文化財、民俗文化財は既に抽出され、文化財に指定されている。しかし、「食文化」、「習俗・風習」、「言い伝え」等、**庶民により今まで継承されてきている足利の歴史文化を物語る文化財**については、まだ十分な調査が為されていない。今後は、このような分野の充実を図るために、聞き取り調査や文献調査等の各種調査の推進を図る。

また、織物技術調査では染色技術に特化したのが、今後はその他の工程等についても調査を継続する必要がある。

(3) 文化財を活用した学校教育・生涯学習

①これまでの学校教育・生涯学習の取組み

足利市における文化財を活用した学校教育・生涯学習のこれまでの取組み状況は、概ね以下のとおりに整理される。

- 小学校の社会科学学習として古くから残る暮らしにかかわる道具・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事・地域の発展に尽くした先人たちの業績について文化財関係施設等を活用して学習するため、足利市立教育研究所により、ホームページ等を通して、郷土のまつり、足利で活躍した人物等への普及・啓発が行われている。
- 足利の地域学習をまとめた副読本『のびゆく足利』が足利市教育委員会により作成され、学校教育のなかで活用されている。
- 生涯学習センター、各公民館、足利学校、市民プラザ等において、市民等を対象とした足利の歴史や文化財等に関する講座が開催されている。
- 「足利市の教育目標」の具現化につながる活動を実践している団体に対し、生涯学習奨励賞を授与している。「足利市の教育目標」①には「郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興」が掲げられている。
- 足利市教育委員会では市内小・中学生を対象に「小・中学生のための考古学教室」を開催しているほか、出土品を活用した出前授業にも対応している。

②学校教育・生涯学習の方向性

これまでの取組みは、行政が主導してきたものであり、生徒や市民にとっては、ある意味で受動的な取組みであったと言える。今後、生徒・市民が足利の歴史文化をより身近なものとして感じるためには、自らが能動的に取組むことができる仕組みが必要である。

● 関連文化財群の積極的活用による学校教育・生涯学習プログラムの立案

市民が、よりわかりやすく足利の歴史文化への理解を深めるために、「基本構想」で設定した関連文化財群を活用した学校教育・生涯学習のためのプログラムを立案する。

「歴史・地理」だけでなく「総合的な学習」等他の学科でも学区内にある身近な文化財を積極的に取り上げられるよう工夫する。

また、生徒への指導だけでなく、教師への研修に取り入れられるようにする。(各小学校で取り上げられる文化財(案)については以下の表を参照)

表:各小学校で取り上げる文化財(案) (1/2)

小学校	主な関連文化財群 (H、I、Jは共通)	近隣の文化財等
けやき小学校	A・C・D・E・F・G	けやき小学校のケヤキ*、史跡足利氏宅跡(鏝阿寺)、史跡足利学校跡、足利公園古墳群、足利城跡、草雲美術館、機神山山頂古墳
青葉小学校	A・B・C・D・F	尻無山城跡、足利市内の出土品・織物機械(郷土資料展示室)
東山小学校	A・C・F	助戸大車塚古墳*、助戸山3号墳、助戸阿弥陀堂の関東九本松、阿弥陀如来立像、木村輸出織物工場
桜小学校	A・B・C・F	助戸・勸農遺跡*、岩井山城跡、勸農車塚古墳、国府野遺跡
毛野小学校	A・B	毛野中南遺跡、日光鹿島神社、石造青面金剛像、竜雲寺、大山祇神社御神楽、西根古墳群、磯入古墳群
毛野南小学校	A・B	常見遺跡*、正善寺古墳、口明塚古墳、鶴木の一本杉、海老塚古墳石室、正善寺、
山辺小学校	A・B・C・F	神宮寺跡*、八幡山古墳群、八幡宮、源氏屋敷跡、富士山城跡、ペタンコ祭り、三栗谷用水、禅定院、足利模範撚糸合祀会社跡
南小学校	A・B・C	古河堤跡*、明神山古墳群、大将陣跡、朝倉の庚申塔、根本神社古墳
三重小学校	B・D・E・G	浄林寺離れ、大岩毘沙門天、最勝寺、瑞泉院、物見古墳群、東山古墳群、水使神社
山前小学校	C・E・G	春日遺跡*、智光寺跡、長松寺、地福院、大原神社の御神楽、三崎稻荷神社、新藤家庭園、春日遺跡

<関連文化財群>

- A. 古墳と古墳発掘のものがたり
- B. 古代律令制下のまちづくりと信仰のものがたり
- C. 足利氏からはじまる武家の統治と文化のものがたり
- D. 日本最古の学校・足利学校と学校を守り伝えた人々のものがたり
- E. 近世足利の交流と発展のものがたり
- F. 織物産業の隆盛と近代化するまちのものがたり
- G. 田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり
- H. 足利の庶民による祈りのものがたり
- I. 足利を支えた女たちのものがたり
- J. 自然と共に歩む人々の営みのものがたり

* 印が付いている文化財は、校内に位置する文化財を示す。

表：各小学校で取り上げる文化財(案) (2/2)

小学校	主な関連文化財群 (H、I、Jは共通)	近隣の文化財等
北郷小学校	A・C・G	菅田古墳群、菅田西根遺跡、菅田稻荷神社、光得寺、光明寺、田島岡古窯跡群、田島古墳群、吉祥寺、示現神社の御神楽
大月小学校	A・B・C	西耕地遺跡*、史跡榊崎寺跡・榊崎八幡宮、榊崎八幡宮太々神楽、蜜蔵院、榊崎城跡、赤見駒場城跡、足利萬古窯跡
名草小学校	A・C	名草巨石群、金蔵院、清厳寺南氏墓所、名草大坂庚申塔、臥竜院エドヒガンザクラ、上丸木古墳群、名草城跡
富田小学校	A・C	駒場遺跡*、東陽院のクロマツ、多田木砦跡、日光例幣使道道標、養老碑、釣地橋、栗田美術館、足利フラワーパーク、例幣使道
矢場川小学校	A	里矢場上屋敷館跡*、藤本観音山古墳、矢場川古墳群、神明宮(芋の森神社)、ニホンカワモズク自生地、例幣使道
梁田小学校	E	中沖遺跡*、星宮神社、地租改正絵馬、梁田宿・長福寺、弾痕の松、梁田戦争戦死塚、耳だれ地藏、円成院
久野小学校	A・B・C	神取町遺跡*、石橋供養塔、中日向古墳群、本源寺、満宝寺、居館跡、観音寺、長昌寺、八幡宮、高松遺跡
筑波小学校	A・B・C	永宝寺、小曾根古墳群、小曾根浅間山古墳、円空仏、羽刈観音山古墳、小曾根遺跡
御厨小学校	E・F・G	例幣使道、八木宿、トチセン、龍善寺、母衣輪神社、覚性院、覚本寺、浄徳寺、長谷川沼田居美術館
坂西北小学校	A・C・E・F	板倉神社、善光寺、正連寺、養源寺、長徳院、宗泉寺、松田神社、中の目遺跡(埋)、神迎祭、松田北台、精霊様の石塔群、羽黒古墳
葉鹿小学校	A・B・D・E・F	宇津木遺跡*、篠生神社の社叢、無量院石造物、東光寺、千蔵院、三島神社、坂西中学校
小俣小学校	B・C・F	上野田遺跡*、鶏足寺、木村半兵衛屋敷跡、民具・足利西部地区出土品・木村半兵衛資料(ふるさと学習・資料館)

<関連文化財群>

- A. 古墳と古墳発掘のものがたり
- B. 古代律令制下のまちづくりと信仰のものがたり
- C. 足利氏からはじまる武家の統治と文化のものがたり
- D. 日本最古の学校・足利学校と学校を守り伝えた人々のものがたり
- E. 近世足利の交流と発展のものがたり
- F. 織物産業の隆盛と近代化するまちのものがたり
- G. 田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり
- H. 足利の庶民による祈りのものがたり
- I. 足利を支えた女たちのものがたり
- J. 自然と共に歩む人々の営みのものがたり

*印が付いている文化財は、校内に位置する文化財を示す。

(4) 文化財の公開

①文化財の公開の現状

足利市における文化財の公開についてこれまでの取組み状況は、概ね以下のとおりに整理される。

- 史跡のうち足利学校、足利氏宅跡（鑱阿寺）については公開を積極的に行っている。榑崎寺跡（法界寺跡）については、本格的な公開に向けて浄土庭園を中心に復元整備を実施している。藤本観音山古墳は、保存整備事業へ向けて公有化を図っている。県、市指定の史跡については公園化されているものは整備し、現地に説明板等を設置している。
- 個人所有の文化財については公開に至っていないものが多い。
- 年に1回「文化財一斉公開」を実施しており、市民、来訪者に足利の文化財の普及・啓発に一定の効果을上げている。
- 市立美術館、栃木県立足利図書館、草雲美術館等を会場として、絵馬展、埋蔵文化財出土品展等の展覧会を開催する等、文化財の公開に関する取組みを実施してきている。
- 埋蔵文化財については継続してシンポジウム、小・中学生のための考古学教室（体験学習）、発掘調査・保存整備現場の説明会の開催、パンフレットの作成・配布等を実施し、普及啓発に努めている。

②今後の公開の方向性

公開の現状を踏まえ、以下の取組みを推進する。

● 関連文化財群を活かした公開イベントの推進

これまでは指定文化財を中心にまた文化財の種別ごとに公開を進めてきたが、よりわかりやすく足利の歴史文化を伝えることを目的として、「基本構想」で設定した関連文化財群の活用を主とした公開のためのイベントの開催を推進する。

● 関連文化財群のパンフレット等の作成

関連文化財群を効果的に市民へと周知していくために、各関連文化財群の概要（ストーリー、文化財マップ等）の説明や、関連するイベント等を掲載したパンフレット等を作成し、市内公民館等を通じた配布を推進する。

● ガイドによるガイドツアー等の開催

足利の歴史に造詣の深い市民や、ある特定の文化財についての専門知識を有する市民専門家等をガイド（あるいは「語り部」）とした、市内文化財を巡るガイドツアー等の開催を推進する。また、そのためのガイドとなる人材の発掘と育成を推進する。

「足利市歴史文化基本構想」の普及啓発

①「足利市歴史文化基本構想」策定の経緯

「足利市歴史文化基本構想」策定にあたっては、市民、行政、学識経験者等からなる策定委員会により作業が進められてきた。策定過程では市民から「足利らしい景観」の募集やワークショップ、シンポジウムの開催、パブリックコメントで市民に対し普及啓発し、意見も取り入れている。今後はこの構想を市民の協力を得ながら具現化していくため、さらなる普及啓発が必要となる。

②普及啓発の方向性

「足利市歴文化基本構想」については、以下に示す取組みの方向性に基づき、普及啓発を推進する。

●「足利市歴史文化基本構想」出前説明会の開催

希望する団体等に対し「足利市歴史文化基本構想」の概要をパワーポイント等でわかりやすく説明する。

●「足利市歴史文化基本構想」とその概要版の配布

各公民館や学校等の関係機関に「足利市歴史文化基本構想」を配布するとともに、概要版を文化財所有者や文化財関係団体、関連施設、市民に広く配布する。また、広報紙「あしかがみ」等を利用した周知を図る。

(5) 足利市文化財認定制度（仮称）

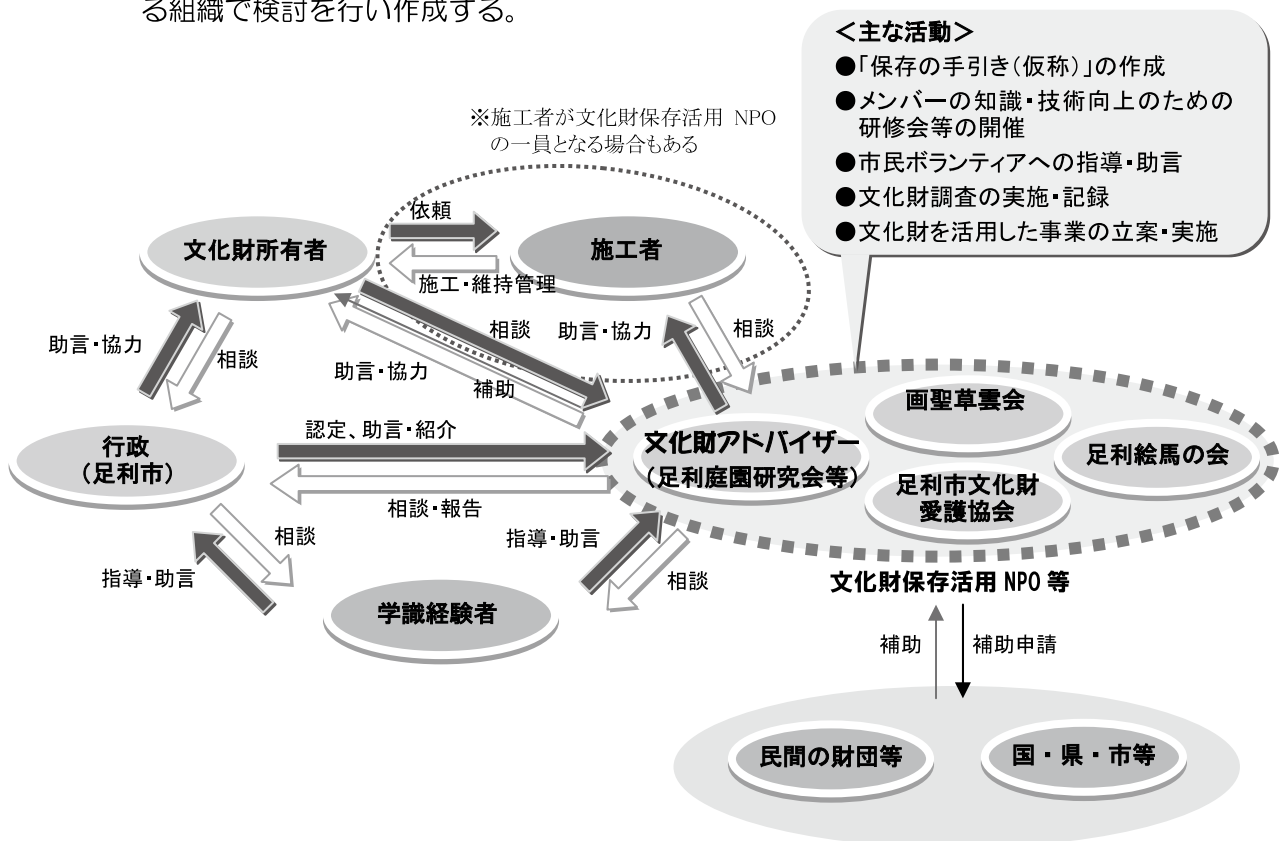
足利市文化財認定制度（仮称）は、文化財保護法に基づく指定・登録等に関わらず、足利市独自の制度として、足利の歴史文化を語る上で価値を有する文化財を認定し、その保存と活用を図るものとする。足利市では、今後、本制度の構築を目指すこととし、現時点で想定される制度の枠組み（案）を以下に示す。

<認定までの流れ>

- 調査研究等により、認定の対象となる文化財が、足利の歴史文化を語る上で価値を有することを明確にし、関連文化財群を構成する文化財に位置づける。（価値の有無等については、行政、専門家、市民等により構成される「足利市関連文化財群認定委員会（仮称）」において承認を得る）
- 価値を有することが認められた文化財については、文化財行政を担う足利市教育委員会より、所有者・管理者等に「認定」への働きかけを行う。
- 「認定」について、所有者・管理者等の合意が得られた後、足利市より「足利市認定文化財」である認定証を所有者・管理者等に発行する。

<認定文化財の保存・活用>

- 認定文化財に認定された文化財については、行政が主導となって、地域住民・企業・NPO等との連携による保存活用のための措置及びそのために必要となる仕組みと体制づくりを行う。（下図参照）
- 認定された文化財の所有者・管理者には、認定証に加え、認定文化財の効果的な保存に役立つ「保存の手引き（仮称）」を提供する。「保存の手引き（仮称）」は専門家等で構成される組織で検討を行い作成する。



図：認定文化財への保存活用のための措置及びそのための仕組みと体制（概念図）

※文化財の修復・復旧、整備等を行う場合における文化財アドバイザー制度の運用例

※上記で掲げている団体名は例示